

一般質問発言通告書

平成22年2月16日  
午 時 分受理

平成22年2月16日

小川町議会議長 千野寿政様

小川町議会議員 柳田多恵子 印

小川町議会会議規則第60条により次のとおり通告します。

質 問 の 要 旨	答弁を求める者
<p><b>質問事項1 安心して子どもを育てるために町が取るべき施策について</b></p> <p>(1) 子ども達に安全で安心おいしい給食を提供するためには、外部委託など行わないこと、町の農業政策の一環として地場産米や野菜を取り入れた地産地消の推進、食育への取り組みなど学校給食の果たす役割について様々な角度から要望、提言を行ってきました。今議会では会計処理について伺います。</p> <p>近年学校給食を私会計から公会計に移行する自治体が増えてきています。どのような理由からでしょうか。県内の状況、公会計に移行することへの町の見解をうかがいます。</p> <p>(2) 経済状況が依然として厳しい中、住宅ローンや教育費の負担が子育て世帯の家計を直撃しています。こんな時だからこそ、医療費の心配なく医者に安心してかかる施策が必要であり、子育て支援の大きな柱として子ども医療費の無料化と窓口払い廃止について再三再四取り上げて来ました。</p> <p>子ども医療費無料化については、昨年6月から中学校卒業まで実施されました。現在、窓口払いの廃止をすすめた自治体が70自治体中47自治体。滑川町が次年度から窓口払い廃止に踏み切るという情報も得ており、47からさらに広がるものと推察しています。</p> <p>ある方が写真を撮ってきてくださいました。病院窓口付近に、東松山市民は子ども医療費の窓口での支払いは不要という趣旨の張り紙を撮ったものです。医者に行くたびに、近隣の東松山市、川島町との子育て支援に対する格差を実感しているということです。</p> <p>笠原町長においては大きな節目を迎えられると思いますが、「当面は見送るべき」との考えは変わりませんか。</p>	

(3) 資格証発行世帯の高校生への短期被保険者証の交付が4月から行われます。一つの前進ではありますが、医療にかかることができるようになって、窓口で支払いができない。そのために医者にかかること自体をやめる。「貧困」はそこまで広がっています。子ども医療費無料化を高校生まで広げることについてご見解は。

(4) 小川町次世代育成支援行動計画・後期行動計画(案)について現在、パブリックコメントを募集しています。議会の中で取り上げてきた課題に一定の前進があることは評価させていただきます。その中で病児・病後児保育について実施時期も含め具体的な青写真をうかがいます。

(5) 12月議会で新型フルエンザ予防ワクチン接種が町独自で助成が行われることとなりました。現在執行率はどのくらいでしょうか。今後の動向と次年度に向けてはどう考えますか。

またヒブワクチンの早期定期予防接種化を求める意見書が議会の総意として全会一致で国に提出されました。一刻も早く国の責任で実現することを希望しますが、自治体独自の助成について全国的にはどのような状況ですか。小川町として独自助成をどう考えるのかうかがいます。

## 質問事項2 公契約条例について

公共工事や委託事業の入札では一般に予定価格に対して落札額が低ければ低い程、財政負担が軽くなるなど低落札を歓迎する向きもあります。しかし一方で低入札が品質の確保を困難にするばかりでなく労働者のくらしを成り立たせなくする状況を作っていく、いわゆる官制ワーキングプアを生み出している現実があります。

野田市が公契約条例を制定し全国から注目を浴びています。条例制定も含め小川町はどう考えますか。

## 質問事項3 介護保険について

昨年の介護保険改正の際、準備基金を取り崩し保険料の値上げを行わないこと、さらに値下げも可能であると述べてきました。

厚生労働省は、介護給付費準備基金について、「被保険者は死亡、転居等により保険料を納めた保険者の被保険者でなくなる場合があること」などから「本来は当該基金が



